

基盤地図情報作成検査ツール バージョン 6.0.85 更新記録

2011/11/13
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. 修正

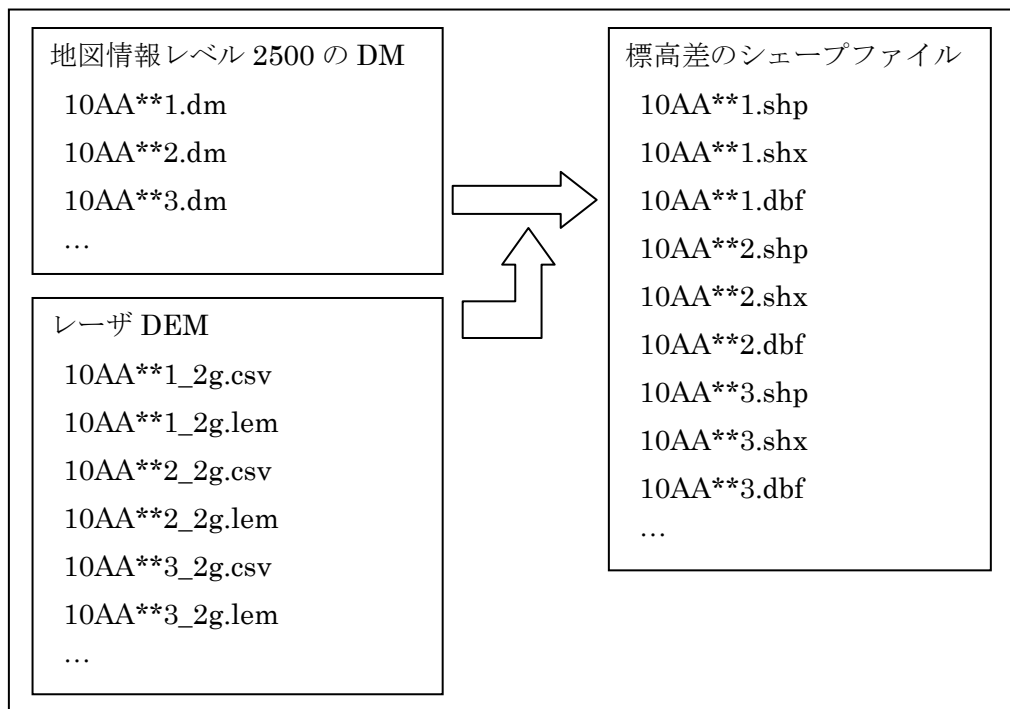
インストールフォルダの「SHPQualityDefCodeFeature.csv」の「道路構成線」の種別に「雨水桝」を追加しました

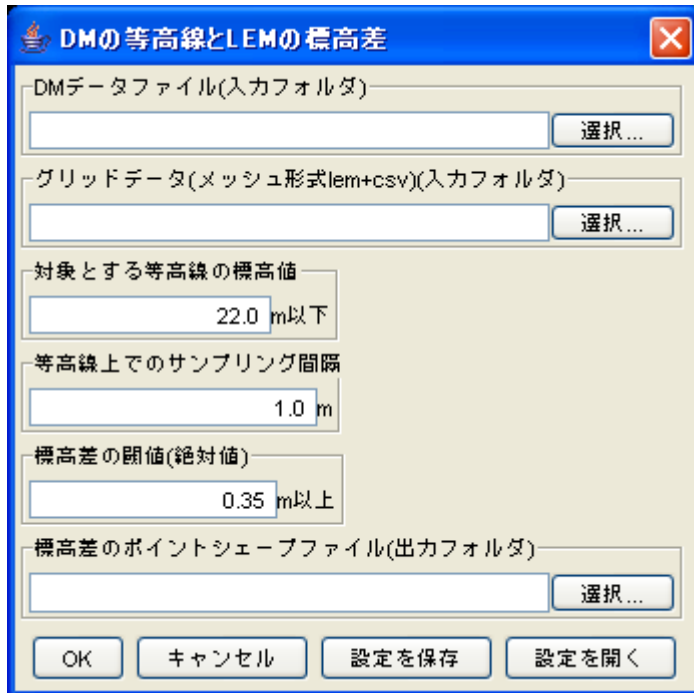
10020	道路構成線		
	種別		
	1	歩道	
	2	側溝	
	3	分離帯	
	4	安全地帯	
	5	雨水桝	2011/11/09追加
	6	その他	
	7	不明	

2. DMの標高点とLEMの標高差

新メニュー[ツール]-[DMの等高線とLEMの標高差]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

DM データファイルの等高線(分類コード 7101 から 7108)について、レーザ DEM(lem と.csv) との標高差を計算し、シェープファイルを作成します





DM データファイル(入力フォルダ)

DM データファイルのフォルダを指定します。このフォルダ内の.dm あるいは.kih を参照します。

グリッドデータ(メッシュ形式 lem+csv)(入力フォルダ)

レーザ DEM ファイルのフォルダを指定します。拡張子が.lem と.csv の組の形式のファイルを参照します。

対象とする投稿線の標高値

DM データファイル内の等高線のうち、指定した標高値以下の等高線を処理対象にします。

等高線上でのサンプリング間隔

等高線のポリラインの各点について処理しますが、点間の距離が長い場合、その線分上の座標についても処理します。等高線上のサンプリング間隔がダイアログで指定された距離より短くなるようにします。例えば、サンプリング間隔が 1m で、等高線の点間の距離が 1.5m とすると、点から 0.75m の位置でサンプリングします。

標高差の閾値(絶対値)

作成するシェープファイルの属性「COLOR」に色を設定するために使います。例えば、この値を 0.35m とします。

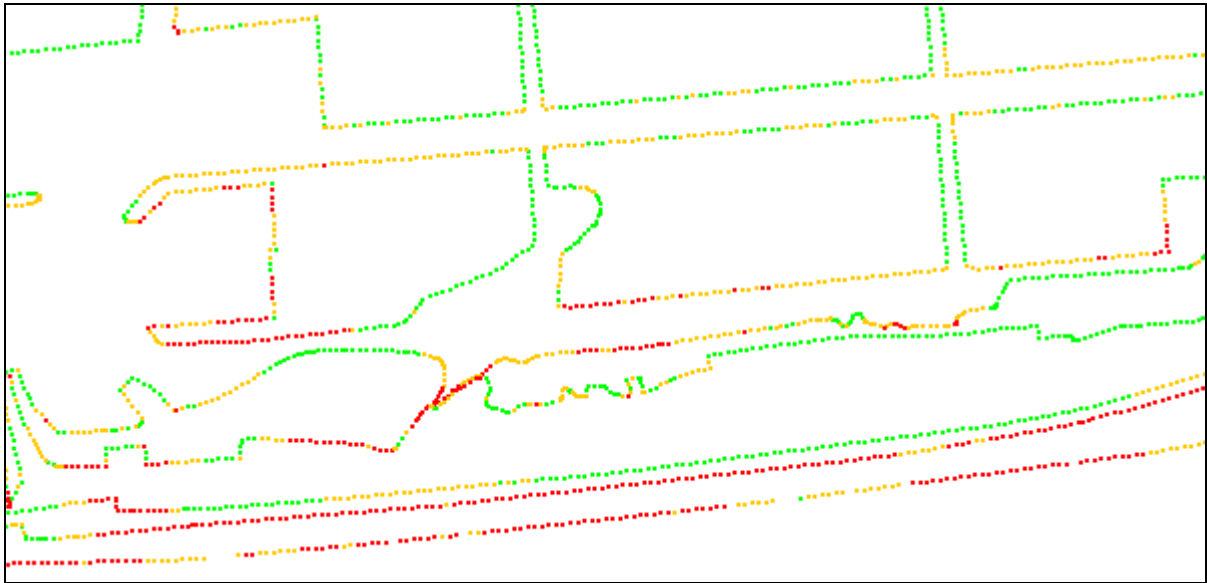
等高線の標高値と LEM との標高差	COLOR
差が±70cm 以上(70cm はダイアログで指定された 35cm の 2 倍)	「red」
差が±35cm 以上	「orange」
差が±35cm 未満	「green」

この属性「COLOR」は、基盤地図情報作成検査ツールで、シェープファイルを開いたときに表示する色になります。

標高差のポイントシェープファイル(出力フォルダ)

DM データファイルと同じ名前で、シェープファイルを作成します。DM データファイルのすべての等高線について、LEM の範囲外で標高値が取得できない場合、シェープファイルは出力しません。

出力するシェープファイルはポイントのシェープファイルです。



シェープファイルには次のフィールドがあります。

フィールド名	型	内容
標高差	実数	LEM を基準とした標高差、メートル
標高値 DM	実数	DM の等高線の標高値
標高値 LEM	実数	LEM での標高値 等高線上のサンプリング点を囲む 4 点の LEM 点から バイリニア補間法(BilinearInterpolation,共一次内挿法)で取得します
COLOR	文字列	「red」「orange」「green」

データ	地物リスト	属性値	座標値
番号	属性名	属性値	
1	標高差	-0.43	
2	標高値DM	4.00	
3	標高値LEM	4.43	
4	COLOR	orange	
	レコード番号	16053	
	タイプ	ポイント	

このシェープファイルを基盤地図情報作成検査ツールで開く際に、「標高値の属性名」に「標高差」を指定した場合、標高差を Z 値として表示しますので、標高差が大きい場所が目視できます。

属性情報

属性に標高値(メートル)がある
 標高値の属性名

データを3D表示する

データを囲む矩形を表示する

属性情報などレポートする

